

卒業生の



市ごみ減量対策課の担当者によると、市内のほかの大学でも同じような取り組みをしていきたいという。

(加藤勇介)

卒業生から集まった家具を品定めする新入生。4月6日まで。在庫がなくなり次第終了。中央大多摩キャンパス

市内空き家情報

シルバーが収集

市と人材センター協定

武蔵村山

空き家の実態把握を目指す武蔵村山市は、市報などの配布を請け負うシルバー人材センターと協定を結び、空き家情報の提供を受けることになった。

少子高齢化とともに市内では空き家が増えている。亡くなった住人の家族が市外に住んでいる場合や、高齢の住人が病院や介護施設に入って不在が続いているなど理由はさまざま。物置などが老朽化して倒壊しそ

対応に苦慮している。実態把握が必要だ」と市防災安全課。しかし、市内全域の空き家を調べるには限界がある。そこでシルバー人材センターに目をつけた。

センターは市から市報や市議会報、選挙公報の配布を請け負い、空き家の情報を収集しやすい立場にある。センターの約60人が市内約3万世帯のうち戸建てを中心に約2万6千世帯への配布を担当している。確認できている空き家は約300軒だという。

一方、国分寺市では昨年7月からシルバー人材センターによる情報提供が始まり、約200軒の空き家を把握している。(鬼頭恒成)

交通実費支給

都議会、継続

本会議や委員会のたびに、都議に一律1万51万2千円が支給される費用弁償を交通費の実費支給に改める野党4会派の条例改正案について、都議会の議会運営委員会(議運)は26日、27日の本会議に上程することを決めた。ただ、最大会派の自民は継続審議を主張し、公明や民主も同調して採決は見送られ、条例改正は先送りされる見通し。

条例改正案は共産、維新、かがやけ、生活者ネットの4会派と無所属の塩村文夏議員が共同提案。議運の村上英子委員長(自民)によると、共産はこの日の議運で本会議での採決を求めたのに対し、自民や公明、民主は費用弁償だけに特化せず、議会のあり方全体を検討すべきだと主張し